

参加無料

都市公園の遊具と子どもの安全

vol. 2

遊具について学び考えるこの会、2回目の今回は私たちにとって身近な「都市公園」について考えます。子ども・子育てに関わる多くの方のご参加をお待ちしています。

日時

2022年 2月26日 (土) 14:00~16:00

Zoom 200名



■ 申込フォームまたはQRコードからお申込み下さい。定員に達し次第締め切ります。

対象

子どもの安全に関心や責任を持つ人、子どもの傷害予防活動を行なっている人、教育・保育施設の教職員等



モデレーター：森山 哲 (技術士・労働安全コンサルタント・子どもの安全グループ会員)

I) 合同学習会開催にあたって

瀬戸 馨 (技術士・日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ 会長)

技術士 (建設、総合技術監理)。道路の安全、雲仙普賢岳災害対応などの経験を活かして、子どもの安全について調査研究している。

II) 「園庭とはけっこう違う！ 公園の役割と課題」

松野 敬子 (社会安全分野学術博士・保育園園長)

我が子を遊ばせている公園遊具の安全性に疑問を持ち調査を始めたのが1997年。2010年には市民レベルの活動に限界を感じ大学院に入学、900か所の京都市内全公園を徹底調査し2015年に博士号を頂きました。地域では、保育園と子育て支援拠点を運営しています。

III) 事例検討

① バナナ型滑り台

鈴木 徹郎 (子どもの安全研究所 代表・小児科医)

小児科・内科医師として勤務する傍ら、近隣の保育園や福祉施設などで子供の事故防止をテーマに講演をしている。

② ローラースライダー

原 真一 (技術士・子どもの安全研究グループ 会員)

技術士 (応用理学、総合技術監理) として事象を分析的に捉え、工場生産設備の安全対策に携わった経験から子どもの安全を技術面から支援することを心掛けている。リスクに何があるか十分に把握したうえでどこまで許容すべきか判断したい。

IV) 遊具の安全基準について

西田 佳史 (Safe Kids Japan 理事・東京工業大学工学院 教授)

日常生活における子どもの行動は、身近でありふれた現象であるにもかかわらず、これまで科学技術の対象として扱われてこなかった現象です。遊具安全の分野では、AI、IoT、ビッグデータなどを活用した新しい基準づくりが始まっています。

V) 遊具による重大な傷害を予防するために

山中 龍宏 (Safe Kids Japan 理事長・小児科医)

子どもの傷害を予防するためには、変えられるものを見つけ、変えられるものを変えることが必要です。今回の学習会では、遊具による傷害が発生した場合、何をどのように変えて予防につなげるのか、という検証報告が行われます。どうぞご期待ください。

